

広島芸術学会活動報告

平成二十七年（二〇一五）年七月一日〜平成二十八年（二〇一六）年六月三十日

▼平成二十七年六月二十八日（日）

会報第一三三号を発行。平成二十七年度総会・第二十九回大会の内容、スケジュール、ワークシヨップ等の案内を掲載した。また、大会関連記事として河本真理（日本女子大学人間社会学部教授）の「広島・長崎 被爆70周年 戦争と平和展」開催に寄せて」を掲載し、西原大輔（広島大学大学院教授）の第一一回例会報告「高原の美術館と愛媛のニューウエーブ探訪」を掲載した。加えて、大井健地（広島市立大学名誉教授）の「入野忠芳・ヒロシマを生きえた画家―レッカともえたジャガイモのために」（連載第4回＝最終回）を掲載した。

▼平成二十七年七月三十一日付で「藝術研究 2015」（年報第二十八号）を発行した。

▼平成二十七年八月一日（土）
広島県立美術館講堂において平成二十七年度総会、第二十九回大会を開催した。

総会は菅村亨事務局長の開会のことは、青木孝夫会長挨拶の後、末永航氏を議長に選出し議事を進めた。第一号議案「平成二十六年度事業報告並びに決算について」について、資料にもとづき、事業報告が青木会長、決算報告が菅村事務局長から説明され、続いて加藤宇章監査から監査報告があり、審議の結果、承認された。第二号

議案「平成二十七年度事業計画並びに予算案について」について、資料にもとづき、事業計画が青木会長、予算案が菅村事務局長から説明があり、審議の結果、承認された。

次に、第三号議案「会則の改正（幹事の設置）について」は青木会長より提案の趣旨、内容の説明があり、審議の結果、案のとおり改正することを承認した。なお、承認にもとづき、大島徹也氏（広島大学）、下岡友加氏（県立広島大学）、山下寿水氏（広島県立美術館）の幹事就任が紹介された。

議事審議の終了後、青木孝夫会長挨拶があり、閉会した。

大会は四件の研究発表と公開シンポジウムを行った。研究発表は①沼田有史（広島大学大学院総合科学研究科博士課程）「ノスタルジア (Nostalgia) 論―生の記憶」と「時間の不可逆性」を基軸として」、②土田耕督（日本学術振興会・国際日本文化研究センター）「めぐらし」と「稽古」―中世和歌における表現理念と持続原理」、③ゲェン・ルン・ハイ・コイ（ホーチミン市師範大学）「川端康成における西行の美学」、④田中勝（東北芸術工科大学・文明哲学研究所）「積極的平和と芸術―「ゼロ平和」から見る芸術の創造的価値」。

公開シンポジウムは会場の広島県立美術館にて開催中の「広島・長崎被爆70周年 戦争と平和展」との連続性を持たせた「戦争画と「原爆の図」をめぐる―その政治性と芸術性の問題」をテーマとし、広島県立美術館と当学会の共催として実施した。谷藤史彦（ふくや

ま美術館学芸課長)の司会のもと、平瀬礼太(美術史家、西原大輔(当
会会員、広島大学大学院教授)、岡村幸宣(原爆の岡丸木美術館学
芸員)、大井健地(当会会員、広島市立大学名誉教授)が登壇し、各々
の専門分野に関する充実した発表がなされた。

▼平成二十七年八月十日(月)

広島県立美術館の「戦争と平和展」に関連し、当学会と広島県立
美術館との共同事業「キッズ・ゲルニカ ワークショップ」を企画し、
同美術館講堂で実施した。

▼平成二十七年八月二十七日(木)

会報第一三四号を発行。巻頭言は加藤宇章(造形作家/アトリエ
ばお造形教育研究所代表)の「平和希求の表現―キッズ・ゲルニカ
ワークショップ」。第二十九回大会の研究発表の報告は、①沼田有
史の発表を山本和毅(広島大学総合科学研究科博士課程前期)、②
土田耕督の発表を青木孝夫(広島大学大学院教授)、③グエンル
ン ハイ コイの発表を西原大輔(広島大学大学院教授)、④田中
勝の発表を柿木伸之(広島市立大学国際学部准教授)が執筆し、公
開シンポジウムの報告は山下寿水(広島県立美術館学芸員)が執筆
した。

▼平成二十七年九月二十日(日)

第一二二回例会として、クリエイティヴ・ユニオン・ヒロシマ
が主催する「ヒロシマ・アート・ドキュメント(Hiroshima Art
Document)―アートを巡るフリー・トークの会―を、広島市とと
もに共催として開催した。会場は広島市中区の旧日本銀行広島支店
であった。ジュディット・カエンと江口方康、二人の映画監督の作

品鑑賞と座談会を行った。

▼平成二十七年十二月六日(日)

会報第一三五号を発行。巻頭言は下岡友加(県立広島大学人間文
化学部准教授)の「黄霊芝さんの日本語創作について」。第一二二回
例会の報告を大島徹也(広島大学大学院総合科学研究科准教授)が
執筆した。

▼平成二十七年十二月二十六日(土)

広島県立大学サテライトキャンパスひろしま 六〇四中講義室に
おいて、第一一三回例会を開催した。研究発表は①于君(広島大学
大学院教育学研究科博士課程後期)の「『太平記』に描き出された
武士像―「忠」と「孝」を中心に」、②森下麻衣子(海の見える杜
美術館)の「西山翠嶂に関する一考察―竹内栖鳳と浅井忠のはざ
まで」。例会終了後、懇親会を開いた。

▼平成二十八年二月二十五日(木)

会報第一三六号を発行。巻頭言は城市真理子(広島市立大学国際
学部准教授)の「不美人図について」。第一一三回例会研究発表の報
告は①于君の発表を西原大輔(広島大学大学院教授)、②森下麻衣
子の発表を中川友佳(広島市立大学芸術学研究科芸術理論専攻)が
執筆した。また、袁葉のエッセイ「あと50数時間:」を掲載した。

▼平成二十八年三月二十日(日)

広島大学(東広島キャンパス)総合科学研究科・管理棟第一会議
室において、第一二四回例会を開催した。研究発表は①片山俊宏(広
島大学大学院総合科学研究科 博士後期課程)の「日本における「坐

の美学の一考察―「岡田式静坐療法」にみる「正坐」また、②土肥幸美（広島平和記念資料館学芸員）の「伝承者と朗読劇―非体験者による被爆体験の語り継ぎについて」。

▼平成二十八年四月二十二日（金）

会報第一三七号を発行。巻頭言は山下寿水（広島県立美術館学芸員）「少しだけ、センチメンタルな旅」。第一二四回例会の研究発表の報告は①片山俊宏の発表を兼内伸之介（広島大学大学院総合科学研究科博士課程後期）、②土肥幸美の発表を山本和毅（広島大学総合科学研究科博士課程前期）が執筆した。また、大橋啓一（猿猴橋復元の会会長）の報告「猿猴橋復元を終えて」を掲載した。

▼平成二十八年五月十四日（土）

第一一五回例会を開催した。この例会は「陶器と建築のお散歩…福山・鞆の浦」と題して、谷藤史彦ふくやま美術館学芸課長の案内のもと、ハンガリー、ブタペストから到着した一五〇年前のヘレンド陶器約二〇〇点（広島県内初公開）。セセッション（分離派）様式を広めた建築家・武田五一の展示、和風モダン建築の元祖・藤井厚二の「後山山荘」を、福山・鞆の浦の新緑のなかで鑑賞した。

▼平成二十八年六月二十四日（金）

会報第一三八号を発行。平成二十八年度総会・創立三十周年記念大会のスケジュール、研究発表要旨、シンポジウム、祝賀会、関連行事の案内を掲載した。また、末永航（美術評論家）執筆の第一一五回例会報告を掲載した。

◆会員の受賞等

・古谷可由（公益財団法人ひろしま美術館学芸部長） 第十回西洋美術振興財団賞学術賞を受賞。

◆会員状況

平成二十八年六月三十日現在、法人会員二法人、個人会員一九九名（一般会員百四十八名、学生会員五十一名）

※文中、敬称を略させていただきました。また、肩書きは当時のものです。

事務局